

スマートシティ実証補助事業(令和6年度実施事例②)

ICT及びデータ分析を活用した健康づくりの支援

心不全等の心疾患患者を対象に、心疾患の重症化予防のため、ウェアラブルデバイスおよびスマートフォンアプリでバイタルデータを収集し、運動目標(心拍数)と運動時間による運動管理、生成AIを活用したフィードバックメッセージ、患者応援サポート等の人的支援を行う実証実験。心疾患患者の運動目標の達成状況や、行動変容アプローチ等に対する有効性を検証。

【対象となる課題】

本市における健康寿命の延伸と不健康期間の短縮に向けた、主体的かつ継続的に健康づくりに取り組むための環境整備や健康への関心・意識の向上

【実証期間】令和6年11月～令和7年2月

【対象者】心疾患患者 40人

【実証結果】

- ・運動習慣の獲得率 66.7%
- ・アプリ利用継続率 81.8%
- ・運動意欲向上率 76.0%

➡いずれも目標を上回る高い結果となり、心疾患患者の運動習慣獲得に寄与した。

「みえるリハビリ」を使って、自己リハビリ



スマホアプリ
「みえるリハビリ」



スマートウォッチ
(Apple Watch、Fitbit)

<アプリの特徴>

- 運動目標(心拍数)と運動時間で目標を管理
- 生成AIによる行動経済学に基づいたメッセージをフィードバック

患者応援サポートによる人的支援&健康相談 (東京海上日動メディカルサービスへ委託)



- 自己リハビリの実施、継続を定期的に電話をかけてサポート
- 24時間365日健康等に関する相談窓口を開設